日本 K-ABC アセスメント学会会員各位

K-ABC 中央事例研究会のご案内

初秋の時季となりました。会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。さて、今年度第２回中央事例研究会のご案内をお送り致します。KABC-Ⅱの検査結果の分析や解釈、支援への活用についての研修会です。今回は、申し込みは必要ございません。また、非会員の方も参加いただけます。ぜひご参加ください。

なお、本事例研究会で学校心理士更新ポイントＢＩのポイントを申請中です。

記

日　時　：　2026 年 10 月 24 日（土）１４：３０～16：３０
場　所　：『アトラスタワー　茗荷谷』　３階　図書文化社　３０１大会議室
発表者　：　村川 幸徳 先生(大阪府立東淀川支援学校)
テーマ　：　学校生活で不安症状を表す小 3 児童(ASD)へのカウフマンモデルからの解釈に基づく支援の検討

概要：通常の学級で学ぶ小学 3 年生男児（ASD）は、授業中の聞き返しが多く、自己否定的な発言、あらゆる場面で不安を訴えている。小学校が実施した簡易アセスメント A²からは学習の習得や集団場面での聞き取りが一年生程度の力と予想された。不安を訴えつつも行動面は落ち着いており、過剰に適応している状況が推察されたため、詳細な実態把握のために KABC-Ⅱを実施した。
結果は、認知＜習得、継次＜同時・計画、学習＜同時・計画など、尺度間の大きなばらつきがみられた。特に継次処理能力は本児の困難さの背景であると推測され、得意な同時処理能力を活かした支援の提案をした。合わせて実施した CBCL・TRF の結果からは困りが自分の内面に向かいやすい傾向が示された。
通常の学級担任が行う支援の限界、新たな不安行動の発現等、経過は計画通りに進まない状況があった。その中で、得意な認知処理を活かした柔軟な指導の展開や、本児の自己理解を促す対話の重要性が示された。

参加費　：　会員（1000 円）・ 非会員（3000 円）いずれも当日会場でお支払いください。

お問い合わせメールアドレス ： 事務局 soumu@k-abc.jp

※会場へのアクセス（地下鉄茗荷谷駅徒歩 1 分）
①茗荷谷駅改札を春日通り側に出る。
②茗荷谷駅を背に左側のベージュ色の高層ビルの3階です。（春日通りに面したビル）
③春日通り側から 1F ローソン横の屋外エスカレーターまたは階段を上がり、屋内エレベーター（1 か所）で3階までお越し下さい。

日本 K-ABC アセスメント学会中央事例研究会担当：盛永　政和